上京 史蹟と文化

2001 VOL. 21

美を創る

〈ステンドグラス工芸家〉

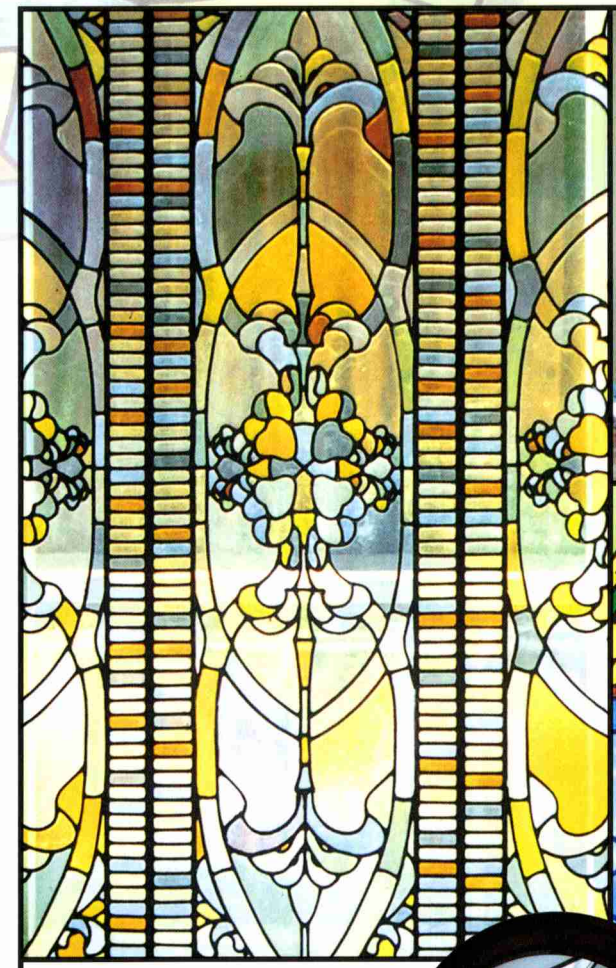
清水伯夫（のりお）

京都市上京区椹木町通衣棚東入

ステンドグラスといえば、まずキリスト教の教会堂の窓が思い浮かぶ。しかし、上京区内を歩いていると思わぬところに見受けられることがある。烏丸通から椹木町通を西へ行くと、その先の南側に細い道があり、その奥にステンドグラスが見える。ここが清水伯夫さんの自宅兼工房である。

東山区に生まれ、大学の法学部に在学中、フランスに旅行し、古い聖堂のステンドグラスの魅力にとりつかれて、そのとりこになったという。大学卒業後、パリ第十五区国立工芸専門大学のステンドグラス科に入学、ジルー教授の指導を受け、京都に帰りステンドグラス専門の工房を開かれた。

ステンドグラスは、色ガラスの小片を鉛の帯金で挟んで組み立てる技術で、小さなものから大きなものまで思いのままに構成できるのが魅力だと語られる。清水さんの技は知る人に知られているが、文化財となっている建造物のステンドグ



ラスの修復にも携わられた。上京区内では、烏丸下立売角の聖アグネス教会（京都市指定有形文化財）がある。その煉瓦造りにふさわしい大きなステンドグラスの窓も清水さんが修復された。作品や修復に使われる色ガラスは、ヨーロッパやアメリカからの輸入品で、とても国産では間に合わないという。

工房では、図面や色ガラスの小片、鉛の棒などが作業机の上に置かれ、いろいろな工具も並べられている。その一隅には陽の光によってステンドグラスが障子に投影されるという心にくいばかりの細工がなされている。

ステンドグラスの本質を理解すれば、現代建築だけでなく、日本古来の町家にも調和する作品も可能だという。今後、民家はもとより、キリスト教会以外の宗教建築や、公共建築での活用も期待されている。

「上京の史蹟シリーズ」

上京の大路小路（その3）

て　寺之内通

上京区の北部を東西に横切る道といえば、寺之内通が代表的でしょう。ところが不思議な道で烏丸から西へ紙屋川まで真直ぐにつながっていないのです。車は東一方通行ですから、途中で迷われた経験をお持ちの方も多いと思います。寺之内―いかにも寺に関係する道を感じさせられます。それもそのはず、もともとは計画的な道路ではなく、自然発生的な地名と考えられます。

寺ノ内新町辺り

平安京の北端は北京極大路、つまり一条大路です。今や街中に埋もれて目立ちませんが、平安遷都当時は幅一〇丈（三〇メートル）の広い道でした。それより北は京外となり、京職（今の京都市役所）の管轄外で山城国になります。つまり山城国司の支配下にありました。平安京の四方の境界は東西南北の京極大路で、唐の都城のように羅城や土塀で囲われていません。ただ南の方は九条大路に平安京の表門である羅城門の両翼に土塀があったようです。最近の研究では山城盆地の北部を東西に結んだ街道を基準としたのが一条大路だという説もあります。

今も昔も低湿地に人は住みません。（だまされて住まわされているかもしれませんが）平安京の南西部は低湿地で、農地が占めていたことでしょう。その代わり、一条より北の高燥地や、鴨川から東の白川流域は住宅最適地として開発されていきます。まず、一条の北一町に今小路、さらに北一町に上立売、その北にできたのが安居院（あぐい）通、その先は鞍馬への道、鞍馬口となります。

寺ノ内通猪熊角

あ　安居院

平安時代も後期になりますと、壮大な大内裏もその機能を失い、廃絶したあとは内野といわれた荒地になってしまいます。このあたりから北へ紫野にかけては賀茂社の神領地でした。

平安時代には今の大宮寺之内あたりに比叡山延暦寺の里坊安居院が設けられ、付近には山門系の諸坊が集まったことにより、寺之内の名が発生したといわれています。今もこの一帯に、本法寺をはじめ妙覚寺・妙顕寺・妙蓮寺・本隆寺の日蓮宗の寺院や、宝鏡寺（百々御所）・宝慈院（千代野御所）・光照院（常盤御所）・三時知恩寺（入江御所）といった尼門跡の寺院が集まっています。

寺之内の南の地域は足利将軍による室町幕府のあったところで、公家や武家の屋敷が軒を連ねていました。その前の鎌倉時代にも既に簿屋が設けられて、丹波や若狭へ通じる街道の拠点とされていたようです。簿屋は夜に篝火を焚いて警固にあたりました。

室町時代も終わりに近づくころ、山名方の西陣と細川方の東陣が対戦して応仁の乱に広がり、京都の町を焼土と

寺ノ内通大宮西入

化します。やがて戦国の世も終わり、織田信長、次いで豊臣秀吉が皇室の権威を利用して政権を確立し、京都の復興により高位の官職を手にします。

特に豊臣秀吉は三つの京都の市街地改造を手がけます。その一つが御土居の造築です。現在も断片的に遺址が残り、国の史跡となっていますが、もとより鴨川右岸と紙屋川左岸の堤防、それを北と南でつなぐ土居、京都の町を外敵から守るとともに、水害も防ごうとしたのでした。二番目は一町毎の正方形で区切られた町割の間に、南北の新道を開いて短冊形の町割を作りました。それは上辺（かみわたり）と下辺（しもわたり）の間の焼跡を利用したとも考えられます。三つ目が、東京極大路の東側と安居院通の北側に寺を集めたことです。これは広い境内を軍勢の集合地に生かせるとの思惑があったとされています。東京極大路はやがて寺町通といわれるようになり、安居院通は付近の寺之内の地名が道路の名称になったようです。今はまばらですが、寺町通の西側に寺はありませんし、寺之内通も南側に面した寺は見られません。

室町頭

さて、今の寺之内通は非常に複雑です。広くなったり、狭くなったり、曲がりくねりながら西陣の織屋街を通り抜けています。これは京外に開かれた新しい道の特色なのです。一条大路を越えて北へ延びて来た平安京の街路の間をつなぐように、新しい道ができてきます。これは直線の縦通に行き当たりながらつながって行きます。そこへ、昭和二十年、戦争末期に空襲の延焼を防ぐために実施された火除地、つまり市街地住宅の強制疎開もからんで、ところどころに広い道や、三角形の広場など、その名残りを止めています。

妙顕寺

ところで、寺之内通の東端は烏丸通に始まります。南は室町小学校、東に京都市染織試験場があり、明治までは相国寺の境内地に含まれていました。

烏丸から西へ、一町ほどで室町通が寺之内通に突き当たります。このあたりの室町通を室町頭町といいます。これは室町通の北端を道路の頭と考えたのです。江戸時代の寺之内より北は畑地が多く、密集した民家は南北の通に沿った路村であったのでしょう。同じように新町・小川・堀川・大宮の各通も鞍馬口あたりから南を、それぞれ頭といいました。

このあたりは昭和二十年の強制疎開のあと道幅が広げられ、斜めの道や、三角形のちびっこ広場ができました。やがて新町を過ぎますと大きなお寺が姿をあらわします。これが妙顕寺です。日蓮宗の本山で、京都における最初の道場として日蓮の高弟日朗の門下であった日像によって鎌倉時代に創建されました。度々の法難に遭いながらも後醍醐天皇から安居院の地を賜わりますが、天文法華の乱（一五三六）で堺へ逃れ、その後ふたたび京都へ戻り、天正十二年（一五八四）秀吉により現在地へ移されます。広い境内にある本堂をはじめ七棟の建造物は天明大火後に再建され、京都府指定有形文化財となっています。

尾形光琳墓

表門の東側の一廓にいくつかの墓碑が建ち並んでいます。その中に「長江軒青々光琳墓」の文字が見えますが、これが尾形光琳の墓なのです。この墓碑は百回忌にあたって琳派の流れを汲む酒井抱一が文政二年（一八一九）に建てました。もとは寺内の総墓地にありましたが、尾形家代々の墓とともにここへ移されました。

寺之内通に面して十数本のソメイヨシノの並木があり、花の名所としても親しまれており、境内には高さ一三メートル、幹周二・九一メートルという上

京区内では最大級のイブキがあります。おそらく天正に移転して以来の古木と思われます。いずれも上京区民の誇りの木に選ばれました。

ど　百々橋

妙顕寺を過ぎると小川通にさしかかります。北へ行く小川通の西北角には、ちびっこ広場があります。これが小川（こがわ）の跡です。もともとは堀川の上流で分かれて南流し、一条通で再び堀川へ合流していたのでした。しかし、昭和三十八年に埋め立てられ、その跡は道路の拡張部分であったり、民家の裏に細長く痕跡を残したりしています。その

百々橋の橋材

小川に架かっていた寺之内通の橋が百々（どど）橋なのです。百々という名の起こりはよくわかりませんが、古く『今昔物語』にも「どどの辻」と見え、すでに平安時代末期には著名な地名であったようです。この橋を有名にしたのは、応仁元年（一四六七）五月、山名宗全と細川勝元の軍勢が百々橋を隔てて交戦し、応仁の乱の火蓋が切って落とされたからです。

この橋も埋め立てによって不要となり、長さ八メートル、幅四メートルの石橋は洛西ニュータウンの竹林公園へ移されていますが、今もこの場所に説明板と橋材の一部が残っています。

お　小川界隈

小川通から堀川通までの間の北側にあるのが宝鏡寺門跡です。今では人形寺として知られていますが、これは皇女が入寺されたことから、代々の尼門跡が愛用された人形や遊戯具が所蔵されていることによります。愛らしい御所人形を彫った人形塚があり、十月十四日に人形供養も営まれます。

天明大火後に再建された本堂などの六棟が京都市指定有形文化財となっています。寺之内通に面して東端に「お物見」という小さい建物があります。これは日頃外出されることのない門跡や尼僧が御霊祭には、ここから祭礼を御覧になったところです。

また秋には真赤に色づいたイロハモミジが寺之内通からもよく見られます。高さ八・一メートル、幹廻一・五メートル、枝張一六メートルという見事なもので、上京区民の誇りの木に選定されました。

人形塚

宝鏡寺お物見

み　妙蓮寺前町

広い堀川通を横断しますが、これも昭和二十年の疎開跡です。大宮通の手前に妙蓮寺があります。妙顕寺と同じく日像の布教に由来します。天正十五年（一五八七）に現在地に移り、寺之内の一員となります。

ここで著名なのは、御会式桜（えしき）と妙蓮寺椿です。ともに上京区民の誇りの木に選ばれています。御会式桜は本堂前にあって、御会式のおこなわれる十月頃から咲きはじめ、四月上旬に満開となり、モミジの紅葉と同時に見られます。根本近くで幹が分かれた背の低い木で、枝先が垂れ下がる八重桜です。

妙蓮寺椿は江戸時代の初めごろから知られた名木です。今の木は樹齢が若いのですが、三代目といわれています。早咲きで、古来文人や茶人に愛でられてきました。

妙蓮寺椿

境内の宝物館には、奥書院と玄関の間にあった障壁画や本阿弥光悦筆の立正安国論など四件の重要文化財と多くの文化財が展示されています。また塔頭本妙院の庭園は京都市指定の史跡で、江戸時代の枯山水の優作として知られています。

妙　蓮　寺

せ　千本界隈

開花した御会式桜と紅葉

西陣の町家が軒を連ねる寺之内通を歩いているうちに、やがて千本通へ出ます。その手前、浄福寺通の西の道を北へ入ったところに称念寺があります。猫寺といえば御存知の方も多いことでしょう。慶長十一年（一六〇六）に伏見城代であった松平伊豆守信吉が、称念上人の遺徳を偲んで建立した松平家の菩提寺でした。しかし三代目の住職が猫を可愛がりすぎて、松平家と不和になったのですが、折しも松平家の姫に猫の霊がのりうつり、その臨終にあたって寺で葬儀をおこなったところから猫寺というようになったといいます。

本堂前には、猫松と呼ばれるよく手入れされたクロマツがあります。幹周一・六メートルに対して、高さ四・一メートル、枝張は一六・六メートルに及び、棚つくりに仕立てられています。これも上京区民の誇りの木です。

千本通の手前には浄土宗の浄光寺という寺がありますが、門前の「池大雅墳墓道」の石標がなかったら見逃しそうです。ここは江戸時代の文人画家、池大雅の墓があります。

千本通を越えるあたりから、広くなったり、狭くなったりしながら紙屋川に至ります。この辺は住宅地となっていますが、昔は柏野といわれたところで、紙屋川を越えると、芦山寺通とつながってしまいます。

称念寺の猫松

永年の信用と実績
真心のご奉仕

葬祭センター　公益社

本　社　京都市中京区烏丸通三条下ル　☎(075)221-4000

◆ 葬儀式場 ◆

中央ブライトホール/京都市東山区五条通大和大路　☎075(551)5555
北ブライトホール/京都市北区紫明通堀川東入ル　☎075(414)0420
宇治ブライトホール/宇治市槇島町（文教大学前）　☎0774(20)0142
滋賀ブライトホール/大津市朝日ヶ丘1丁目12の5　☎075(523)0042

上京の埋蔵文化財

迎賓館建設予定地の発掘調査

前回（上京史蹟と文化VOL・20）は、発掘調査で検出した江戸時代の道路・建物・池などの遺構を通して、京都御所東方に在った公家屋敷町の景観を中心に紹介しました。今回は発掘調査で出土した遺物から、当時の暮らしぶりの一端を見てみたいとおもいます。

膨大な出土遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は、整理用コンテナ（みかん箱位に相当）で9000箱以上という膨大な量に達します。そして、その遺物の8割以上が近世のもので占められていました。桃山・江戸時代初頭の公家屋敷建設の際に行われた大規模な整地によって、中世・平安時代の遺構の大半が削平を受けていたことと、明治時代の早い時期に公園になったことが幸いして、近・現代の大規模な遺跡破壊を免れたためです。

近世の京都は江戸・大坂とならんで三都と称される大消費都市でした。またその反面、手工業生産でも他の都市の追随を許さない産業都市でもありました。したがって、京都には全国からさまざまな生活物資や、商品生産に関連する資材が流入していました。ですから、発掘調査を進める以前から相当量の出土遺物は予想されましたが、実際調査してみますと、京焼（写真1）や信楽・丹波焼などのいわば地元の陶磁器はもちろん、備前焼（岡山県）、萩焼（山口県）のほか、当時国内の主要な陶磁器の産地であった九州の肥前地方（佐賀県）（写真2）や瀬戸・美濃地方（愛知・岐阜県）のもの、遠くは沖縄産のものまで含まれていました。また海外から輸入されたものとしては、江戸時代初頭の遺構からは中国（写真3）・朝鮮・ベトナム・タイなどの東南アジアから、19世紀以降幕末には、遙かオランダやイギリスの陶磁器（写真4）やガラス製品も出土しました。通常発掘調査で出土する遺物は、瓦や陶磁器類、貝殻などの食物残滓が主なもので、その時代に使用され、何らかの事情で廃棄されたものです。リサイクルが現在よりはるかに盛んだった江戸時代では、前述の遺物量から、当時の使用されていた品がいかに多く、又、バラエティに富んでいたか理解していただけると思います。

写真2　肥前磁器（伊万里）の最高水準である、鍋島藩窯の鉢と皿。（左の鉢高さ5.9cm）

写真1　京焼を代表する窯の一つ、乾山窯の筒形碗。（高さ6.1cm）

様々な遺物

では具体的にこういった遺物はどの様に出土するのでしょうか。京都は江戸時代、宝永五年（一七〇八）・天明八年（一七八八）・元治元年（一八六四）などに、ほぼ壊滅的な火災に遭遇します。公家町も例外ではなく、宝永と天明の大火には全焼していることが判っています。その際に焼けた瓦や壁土などは、使えなくなった生活用品と共に整地されるか、穴を掘って廃棄されます。このような広範囲に及ぶ整地層に含まれる遺物は、時代を特定できる大切な鍵になるのです。整地の上に建てられている屋敷や付属する井戸・便所・排水溝・ごみ穴などは新しく、

写真5　能舞台の床下で、音響効果用に埋められた信楽製の甕。天明火災の整地層の上でみつかった。（高さ約64cm）

写真3　中国製の青花（染付）大皿。この種類の皿では最大のもの。（口径47.1cm）

整地の下層で検出された遺構や遺物は古い時期のものになるからです（写真5）。調査地での発掘成果を例にとってみれば、宝永五年の整地層と天明八年の整地層の間には、江戸時代中頃の八十年間の生活痕跡が封じ込められていたのです。

地中に遺された生活痕跡といえば、まず思い浮かぶのはごみ穴（写真6）です。公家屋敷は町屋に比べて、敷地が広く空閑地が多かったせいか、江戸時代を通して屋敷地内でごみ処理をしていたらしく、ごみ穴からは当時使用されていた様々な遺物が数多く出土します。壊れた壺や茶碗、使われなくなった玩具や土人形（写真7）、折れた

写真6　ごみ穴（縦 約2.0m）に捨てられた陶磁器や土器。

写真4　イギリス陶器（クリームウエアー）の水差と皿。（水差高さ31.8cm）

公家の生活

公家屋敷跡の発掘調査が、今回程大規模に行われた例はありません。そこで比較的調査例の多い、町屋跡や武家屋敷跡と出土品を比較しますと、日常に使用されていた陶磁器には目立ったガラス製のかんざし（写真8）、磨り減って使えなくなった硯（すずり）や小さくなった火打ち石、誤って捨てられてしまった小判（写真9）など、どれを取っても当時の生活を彷彿（ほうふつ）とさせる貴重な資料なのです。

写真7　ままごと遊びに使われたミニチュアの台所用品や、人形、泥面子とよばれるおはじき類。

の普段使いの陶磁器。

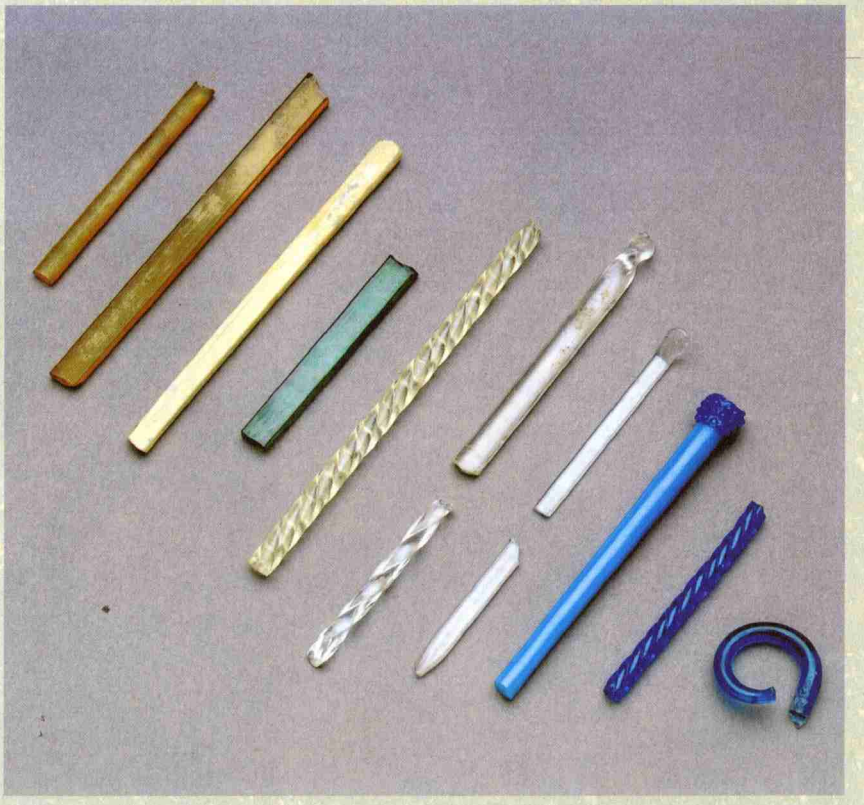


写真8　ガラスかんざしは安価であったせいか、黄・白・青・透明のものなど種類も数も多く出土した。（最長のもので9.1㎝）

違いは無く、むしろ質素であった印象を受けます（写真10）。ただ祝事などハレの席に使用されたとおもわれる、京焼や肥前磁器などには質の高い製品がみられます。また古代から平安・中世期を通して使用され続けた、「かわらけ」と呼ばれる土師器の皿が、町屋などに比較して異常に多いことも特徴としてあげることができます。公家衆が、伝統的な生活習慣を維持し続けていたと考えられます。しかし、一方では幕末になると、当時としては珍しかったヨーロッパの陶磁器類やガラス製品などが出土していますから、案外新しいもの好きであったのかもしれません。

写真9　寛永通宝などの銅銭は多く見つかるが、金貨（天正桐小型大判金）が出土するのは極めて 珍しい。（縦40.7cm・厚み0.41cm）

京都は平安遷都以来、現在まで連綿と都市生活が営まれていたところです。「平安京」として、古代や中世の京都はよく話題になりますが、これから遺物の整理作業が進めば、文献や伝世された文化財だけではわからなかった、近世京都の公家町の歴史や人々の暮らしを、より詳しく知ることができるようになるとおもいます。

（財団法人京都市埋蔵文化財研究所　能芝 勉）

写真10　江戸時代後期頃（19世紀初め）

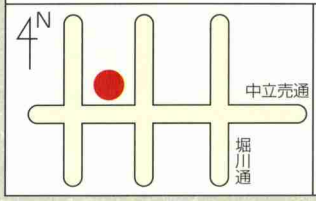
地域社会に
貢献する

大阪陸運局自動車整備認証工場
株式会社 土田モータース
有限会社 ツチダエージェンシー
京・上・烏丸通寺の内上る647 〒602-0898 TEL(075)431-8121(代表) FAX(075)441-9159

菓匠
本家 玉壽軒
〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

RISTORANTE
FUKUMURA
フクムラ
定休 火曜
AM11:00～PM3:00　PM5:00～PM9:00
〒604-8054
京都市中京区富小路四条上ル路地
☎(075)255－2060

耳鼻咽喉科
鈴木医院
〒602-8241京都市上京区中立売通堀川西入
TEL (075) 441-0675



■診療時間
(月)・(火)・(水)・(金)
午前9:00～12:00
午後4:30～ 7:30
(土)
午前9:00～11:30まで
●休診　木・日・祝

上京の町家

織成舘（おりなすかん）

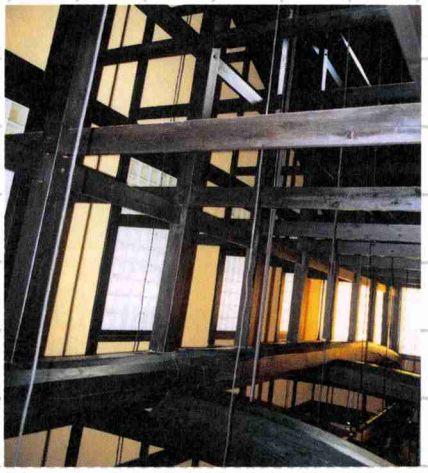
京都市上京区浄福寺通上立売上ル

西陣の大黒町といえば、いつも機音の聞こえる町であった。しかし今も西陣の町家が多く残る貴重な道でもある。最近、道は石畳となり、電柱も片側へ寄せられ、空中の電線も目立たなくなっている。心もちか広くなったように思える道の西側に織成舘がある。

ここは西陣で帯製造業を創めた渡文の初代、渡邉文七家の店であり、居宅であった。昭和十一年の建築というから六十五年の歳月が経っている。平成元年に現当主の渡邉隆夫氏が財団法人手織技術振興財団を設立し、居宅を活用して手織りを中心とする染織文化、工芸文化を広く知らしめ、その振興を図る拠点とされた。

炊事場や竈のあった水屋は取り除かれているが、大黒柱や小黒柱、さらに大屋根を支える梁組の空間を生かして展示室が構成されている。おそらく最後といってもよい工匠の腕の冴えを感じることができよう。

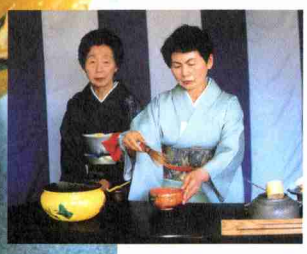
室内には全国の手織物や能装束などが展示されており、一階から二階へ足を進めるにしたがって、町家の見事な構成に目を見張らされる。天窓から入る光が黒光りする柱に投影し、京都ならではの空間を作り出す。



北側に接続して須佐命舎（すさめいしゃ）という新しい建物がある。新しいといっても、その建材は島根県の東須佐小学校の校舎の古材を用いて平成七年に建てられた。これは米国から来日して宮大工になったマイケル・アンダーソン氏がデザインしたという。鉋で一皮削っただけで初々しい木肌をあらわした太い梁や床板には、元の木口や釘跡も見られ、和風にも洋風にも転用できる日本建築の良さが生かされている。

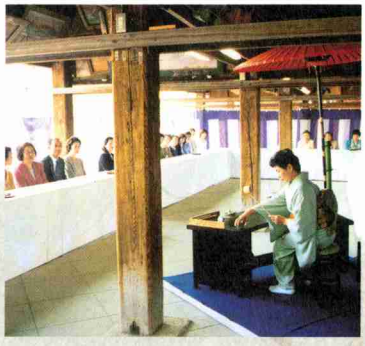
ここでは小型のつづれ機による体験学習もでき、工場も見学させてもらえる。なお、体験学習と工場見学は予約が必要。月曜と年末年始は休館。十時から四時まで、有料。

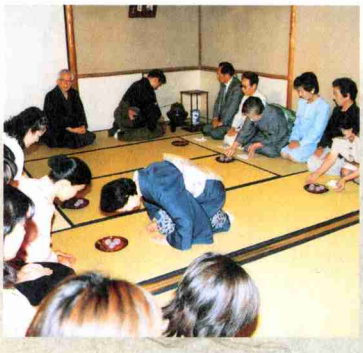
（電話〇七五―四三―〇〇二〇）



春の上京茶会

恒例の春の上京茶会は、上京区文化振興会と上京区役所の共催で五月二十日に行われました。来年の大萬燈祭を前に修復なった北野天満宮を会場として、本席を明月舎、副席を絵馬所に設け、表千家家元の懸釜で、三百人余りの人々が、抹茶の味に親しみました。





上京区民 文化フェスティバル

七回目を迎えた上京区民文化フェスティバルは、今年も西陣織会館を会場として三月四日に開催されました。コーラス、民謡、フラダンス、社交ダンス、日本舞踊等々二十に及ぶ出し物が上京区民によって演じられました。

「憲法月間」に伴う講演会

「女（ひと）と男（ひと）、共に生きるために」

講師　淡谷 まり子

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました淡谷です。今日はたくさんの皆さんにお集まりいただいて。特に大変うれしく思っておりますのは会場に男性が大変多くおられる。普通、昼間の講演会ですと、大部分が女性の方で男性はとても少ないんですね。特に女性問題、今問題になっております家族問題とか、男女の共同参加社会をつくるというような話をしても、会場の方から「うちのお父さんにぜひ言ってやってください」というお話が出て、男性にその話がなかなか届かないということが多くて。日本の社会は男性中心の社会ですから、やはり男性が変わってくださらないと、なかなか日本全体が変わるというふうにならないんですけれども、今日は本当に男性が多いので、張り切って話をしたいと思っています。

「日本国憲法」には男女平等の原則というものがうたわれておりますし、結婚においても両性の平等が保障されているわけです。本来ならば、そこでめでたしめでたしで終わるわけなんですが、そうはいかない。それだけでは決して世の中の仕組みがうまくいかなかった、という話をこれからしたいと思います。

男女平等というのは、憲法に書いてあれば、法律があれば、現実社会がそのようになるというものではないんですね。

昭和三十年代の終わりから四十年代の初めぐらいにかけて日本で問題になりましたのは、「結婚退職制」「出産退職制」あるいは女性の「若年定年制」というものだったわけです。

「結婚退職制」「出産退職制」というのは、当然のことながら憲法の定める「男女平等の原則」に反するわけですね。結婚したら女性だけ辞めなければいけない。出産したら事実上、首を切られる状況になるというようなことは、どう考えてもおかしいわけです。

先ほど申し上げたような男女の「差別定年制」や「若年定年制」、あるいは「結婚退職制」「出産退職制」は、みんな日本の労働組合と企業との合意のもとにつくられた制度だったわけです。

労働組合というのは、本来労働者の権利を守る組織であるにもかかわらず、女性が結婚したら辞めざるを得ない、子どもが生まれたら退職せざるを得ない、という仕組みを会社と率先してつくったわけです。それはなぜかというと、結局のところ労働組合というのも男性中心の組織ですから、先ほど言いましたように、女性は家庭に入って子どもを育てる、あるいは夫の世話をするのが本来の役割であるという認識から抜け出られなかったわけです。

こういうふうな現実。つまり憲法があっても労働基準法があっても女性は嫌だったら辞めて家庭に入ればいいじゃないか、家庭に入って家事や子育てをやって旦那のためにご飯をつくったり、洗濯をしたりするのが本来の役割じゃないか、という考え方が根底にある限りは、いくら憲法があったって労働基準法があったって、あんまり現実的な平等には役に立たない、ということに女性たちが気づきはじめたのが戦後何十年か経ってからなわけです。

それと同時に社会は男性と女性と半分ずついるんだから半分ずついろんな

ルビノの やすらぎ
2,800円（税・サ別）●ご予約制
大好評！

HOTEL Rubino ホテル ルビノ京都堀川
〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
Tel.075-432-6161 / Fax.075-432-6160

役割を担う。どの分野においても男性と女性が共同で参加して物事を進めていくのが望ましい姿であるという認識が、少しずつ、少なくとも女性の中には拡がったと言っていいかと思います。つまり、「共同参画社会」といわれるようになってきたわけです。

そういうことからおわかりのように、法律や制度があっても、現実の社会の意識というものが変わっていかないと、世の中が本当の意味での平等な社会、あるいは男性と女性が平等で築き上げていく社会にはならないわけです。この意識の根底を成しているものが何かと言いますと、さっきから申し上げているように、やっぱり男性と女性の役割を分ける考え方、男は仕事、女は家庭というその考え方の部分を基本的に切り換えない限りは本当の意味での平等というのはついていかないだろうというふうに思います。

最近、「規制緩和」という言葉が一つの流行になっていますけれども、「心の規制緩和」というものも必要だと思います。「心のバリアフリー」と言ってもいいかもしれません。今まで自分はこうしなければいけないんじゃないかとか、女だからこうだ、男だからこうだというふうに思っていた垣根を取り払うことが大事なんじゃないでしょうか。それはでも、言うべくして大変行いがたいことだと思います。

一人一人が一人でも生きていける、だけれども、一緒にいるともっと楽しいから、一緒にいることで心が安らぐから一緒にいましょうという、本当の意味での人間関係や家族関係をつくれる、まさにそういう背景が今、生まれつつあるだろうというふうに私は考えています。困ったときこそ、あるいは他に守られるものが何もないときこそ、人間同士の裸の関係というものができるわけですから、そのいいチャンスだと思っております。

それから日本は高齢化社会になるわけですから、これを乗り切っていくためには、男性も女性も共に手を携えていく。人間にとって一番大切なものっていうのは何かっていうと、年をとっていけばいくほど、やっぱり共通の記憶とか経験というものだと思います。私も相当年をとって、最近、やはり共通の記憶とか経験というものがないと、話ってなかなか通じないですよね。そうすると、老後をどう過ごしていくかというと、やはり同じような記憶や体験やそういうものを共有した人と仲良くしていけるということが一番なんじゃなかろうか。そのためにはやはりすぐ隣にいる配偶者であったり、恋人であったりという人たちと一緒に手を携えて生きていくということができなければ、辛いものになるだろうと思います。そのためにも男性も女性も豊かにいきいき生きられる社会を目指して、これからも家庭や職場で皆さんそれぞれが少しずつ周りを変える、あるいは自分を変える試みをしていただきたいというふうにお願いして、私の話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

この講演は上京区民ふれあい事業実行委員会と上京区役所の主催により、五月十六日にルビノ堀川で行われた憲法月間の後援会を要約したものです。

編集後記

○「上京―史蹟と文化」も十一年目に入りました。少しずつ編集に新味を加えようと思っています。

○本号から「上京の町家」のシリーズ始めます。まず手始めに織成舘を取り上げました。古いままではなく、現代に生かして活用されている町家を紹介したいと考えています。

○「美を創る」も、上京にふさわしい芸術家、作家などを推薦していただければ取材に参上します。

（い）

FLOWER OFFICE
花工房®

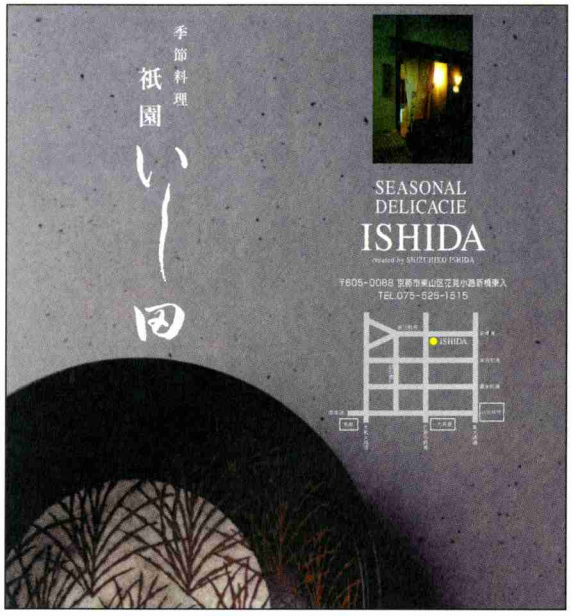
—お電話でのご予約承ります—

□京都本店
京都市上京区烏丸通今出川下ル
TEL.075-414-8700㈹
FAX.075-414-7787
URL：http://www.hanakobo.co.jp
E-mail：honten@hanakobo.co.jp
長岡店・大津店

断ちきろう　身近な差別を　私から

表紙／夏の御所／桂俊夫撮影

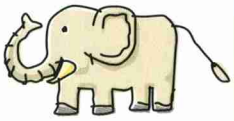
上京・史蹟と文化　第二十一号　平成十三年八月十五日　発行
上京区ふれあい事業実行委員会　編集・主管　上京区文化振興会・上京区役所　印刷　和光印刷株式会社



元祖
ぼたん鍋と京料理
畑かく
京・上御霊前烏丸西
〒〇七五・四四一・〇六一〇㈹

上京区民の文化的情操を高めるのが
上京区文化振興会の使命です。
発足以来40年余、上京区民の文化人によって組織され、文化振興に尽くしてきました。

ひとりしかいない自分
いちどしかない人生
遊びを通して
豊かな人格形成を
めざしています



夏の北山自然観察林　5才児

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御前通り一条下る
（市バス北野天満宮下車南100米）
TEL.463-0111㈹
http://homepage2.nifty.com/kitano-kindergarten/

創業宝暦五年
宮内庁京都御所御用
京菓子司 俵屋吉富
本　店　京都・室町上立売
電　話　（432）２２１１代
烏丸店　京都・烏丸上立売
電　話　（432）３１０１代